

【授業の視点】

・解放令以後、差別が根強く残ってしまったことに着目し、「水平社宣言」から当時の人々の思いを考えさせたことは、えた・ひにん身分であった人々が起こした大衆運動を、デモクラシーの風潮と結びつけて表現するために有効であったか。

1 単元名 第6章 1節 第一次世界大戦と日本

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領歴史的分野の内容C(1)「近代の日本と世界」の(オ)「第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現」を受けて設定したものである。

19世紀末の欧米諸国は、地球上の至る所で植民地を広げ、アジアに続いてアフリカや太平洋諸地域の大半も植民地化された。こうして欧米諸国が世界を支配した一方で、ヨーロッパの中では対立も起こっていた。大国間の思惑のもつれから始まった第一次世界大戦は、世界史上初の「総力戦」である。各国が国民、経済、資源や科学技術を総動員して国力を使い果たした結果、全世界計3700万人もの死傷者を出し、歴史上類を見ないものとなった。本単元において、なぜここまで戦争が大きくなったのか、その原因を探ると同時に、戦争の悲惨さに気づいた人々の努力によって、民族自決や国際協調の動きが生まれていったことを理解させたい。

第一次世界大戦を世界の歴史としてまず捉えさせるとともに、大戦が世界各国にどのような影響を与えていったのかという点に着目させ、当時の国際情勢及び我が国の動き、大戦後の国際平和への取組への努力がなされたことを理解させたい。近代から現代への転換期に起きた世界的な出来事であり、日本においても多くの影響を受けていることから、時代の特色を理解させることに役立つと考えられる。

本単元を通して、第一次世界大戦が世界各国にどのような影響を与えていったのかを、具体的な資料から読み取り考えることで、第一次世界大戦の持つ意味が理解できる。社会事象を的確に読み取り、正しく関連付けて説明することにより、社会的判断力を高めさせたい。

(2) 生徒観

3 目標及び評価規準

(1) 目標 第一次世界大戦の背景や概要、世界各国への影響について理解させる。

(2) 評価規準

【社会事象への関心・意欲・態度】

第一次世界大戦の背景や、現代まで続く民族問題に関心をもち、我が国でも多くの民衆運動が起こった背景について、主体的に追究しようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

第一次世界大戦の背景を、帝国主義などの考えを基に説明したり、日本の大正デモクラシーについて現代の民主主義と関連して捉え、自分の意見考えを表現したりしている。

【資料活用の技能】

第一次世界大戦前後のヨーロッパの地図や民衆運動に関わる資料から、当時の国際情勢や当時の人々の思いを読み取っている。

【社会的事象についての知識・理解】

第一次世界大戦の概要を、原因・経過・結果から理解するとともに、大戦が世界各国に与えた影響を理解している。

4 人権教育とのかかわり

群馬県では、2016 年の「部落差別解消推進法」制定以降、数件の差別事件が発生している。差別的な落書きや行政への被差別部落の所在地を確認する問い合わせなどである。群馬県人権教育の重要課題のひとつに「同和問題 同和問題に関する差別意識の解消を図る。」とあるように、積極的な人権教育・人権啓発活動を進めていくことが求められている。中学校段階でも、一人一人が差別の現実をつかみ、差別を見抜く人権感覚を磨いていくことが必要である。

そこで、本単元では、大正デモクラシーの風潮がどのような運動に発展していったのかを考える場面において、部落解放運動の高まりや全国水平社の設立などを取り扱うことで、部落差別をはじめ、様々な差別と向き合い、当時の被差別部落の人々の思いを実感できるようにする。さらに、現代においても残る同和問題に対して、自分たちがどのように生きていくことが望ましいのかを積極的に考える態度を身につけることができるよう学習を進めていく。

5 校内研修とのかかわり

○自他の考えを交流し、わかり合ったり考えを深め合ったりする対話的な学びのよさを実感させる指導の工夫

【直接的指導】

人権に関する 11 の重点課題のうち、本単元において「同和問題」について取り上げ、差別の実態や背景を理解し、差別を許さない態度を身につけることができるようにする。

【間接的指導】

意見をもてない生徒には声かけなどの机間支援を行い、自分の意見がもてるようにする。話し合いの場面では、お互いの意見を認め合えるような声かけを行い、他人の考えを聞いて自分の考えを広げることができるよう、自分の意見と他人の意見とを色分けをして比較がしやすいようにする。

【常時指導】

自分の意見を発表させる場面において、具体的にどこがよかったのかを伝え、積極的に称賛を行う。

6 指導方針

単元の学習過程において、以下の方針により指導する。

○「つかむ」過程では、第一次世界大戦に関心をもつことができるように、特徴的な視覚資料を提示しながら発問などを行っていく。

○「追究する」過程では、第一次世界大戦が各国に与えた影響について考え、説明することができるように、意見をワークシートに記入する時間や、意見交流の場を設定する。また、様々な資料から、必要な情

報を適切に読み取ることができるように、拡大した資料を提示し、その場で生徒と同時に読み取り方やポイントを示す。

○「まとめる」過程では、第一次世界大戦が各国に与えた影響を理解し、学習した社会的事象を有機的に結びつけることができるように、課題に対する自分の考えをまとめる場面を設定する。

7 学習計画（8 時間計画）

	時間	学習活動	評価項目と評価方法
つかむ	1	○これから学習する時代に関する資料を見て、この時代のイメージをもったり、世界との関わりを予想したりする。 ○第一次世界大戦を、起こった背景、経過、被害などを理解し、単元の課題を把握する。	○第一次世界大戦の原因・経過・結果から戦争の概要を理解し、これからの学習への興味・関心を高めている。 【関心・意欲・態度】 (ワークシート・発言)
		【単元の課題】 第一次世界大戦は、各国にどのような影響を与えたのか。	
追究する	2	○ロシア革命の背景と経過とその後のロシアの歩みについて理解する。 ○ロシア革命について、当時の他の国々とも比較しながら、ソ連の誕生について話し合う。	○ロシア革命について、その原因や経過を踏まえ、計画経済の国家の誕生について、自分の考えを述べている。 【思考・判断・表現】 (ワークシート・発言)
	3	○地図の比較から、大戦後のヨーロッパの変化を読み取る。 ○国際連盟の特色を理解する。	○大戦後のヨーロッパの変化を、地図資料から読み取っている。【技能】 (発言・観察)
	4	○アジアにおける民族運動と日本の対外政策について理解する。	○アジアにおける民族運動について、民族自決の視点から理解をしている。 【知識・理解】(ワークシート・発言)
	5	○大正デモクラシーについて、護憲運動や普通選挙の実現を通して理解する。 ○政党内閣やデモクラシーの思想について、現代と比較しながら話し合う。	○大正デモクラシーの主張を現代と比較して、自分の意見や考えを述べている。 【思考・判断・表現】 (ワークシート・発言)
	6	○当時差別を受けていた人々の想いを考え、デモクラシーの風潮から発展した大衆運動のうち、労働者と女性の運動の概要を自分の言葉でまとめる。	○労働者、女性の想いを考えることを通して、差別について考え、自分の意見を述べている。【思考・判断・表現】 (観察)
	7 (本時)	○当時差別を受けていた人々の想いを考え、デモクラシーの風潮から発展した大衆運動のうち、えた・ひにん身分であった人々の運動の概要を自分の言葉でまとめる。	○水平社宣言から読み取ったことを自分の言葉で表現しようとしている。 【思考・判断・表現】 (観察)

まとめる	8	○大正期の教育と文化について理解する。 ○市民生活の変化を通して、文化の大衆化などに触れる。 ○単元全体の振り返りをする。	○文化の大衆化について、自分の意見や考えを述べている。 【思考・判断・表現】 (ワークシート・発言)
------	---	---	---

8 本時の学習

(1) ねらい

○水平社宣言を読み、当時差別を受けていた人々の想いについて考えることを通して、デモクラシーの風潮がどのような大衆運動へと繋がっていったのかを自分の言葉で表現する。(社会科)

○当時差別を受けていた人々の思いを考えることを通して、現代においても差別を許さないという態度を身につける。(人権教育)

(2) 準備

教科書、ワークシート、視覚資料(パワーポイント)

(3) 人権教育の視点

○感性：大衆運動の背景から、現代にも差別が残っていることに気づく。

○実践力：身分制度廃止後も続いた差別の原因を考え、差別を許さないという態度を身につける。

(4) 展開

過程	学習活動	時間	学習活動への支援及び留意点
つかむ	1 前時の復習をする。 ○大正デモクラシーの運動がどのような大衆運動に繋がっていったのか、前時で扱った労働者・女性の立場ごとにふり返る。	5	・大衆運動を立場ごとに確認をすることで、本時で扱う「えた・ひにん身分であった人々」はどのような大衆運動を起こしたのかを考えることに繋げる。
	2 本時のめあてをつかむ。 ○当時、えた・ひにん身分であった人々が、どのような差別を受けていたのか予想する。 【予想される生徒の反応】 ・就きたい仕事に就けない。 ・結婚ができない。 ・仲間はずれにされる。	5	・当時、えた・ひにん身分であった人々が、どのような差別を受けていたのか予想することで、授業への見通しをもつことができるようにする。 ・予想を立てることができるよう、資料を提示しながら、当時差別を受けていた人々の様子を補足説明する。 ・書けたら周りの人と意見交換を行う。
	【めあて】 デモクラシーの風潮の中、えた・ひにん身分であった人々は、どのような大衆運動を展開させたのか。		

追究する	3 本時の内容を学習する。 ○教科書を読みながら、重要語句を確認する。 ○教科書 p190・191 から、解放令以後も差別に苦しんでいた人々の様子を知る。 ○「水平社宣言」に着目し、自分が印象に残った箇所に線を引き、その理由を考える。	5 5 5	・教科書を活用しながら、解放令以後の差別を受けた人々の生活の様子を紹介する。 ・教科書の他にも、当時差別に苦しんでいた人々の様子を紹介することで、「水平社宣言」がどのような思いで出されたのかを考えやすいようにする。 ・線と理由が早く書くことのできた生徒には、1 箇所だけでなく、他の箇所も線を引いて理由を考えるよう促す。
	○印象に残った箇所とその理由をグループで発表しあう。 ○自分の印象に残った部分と友達の印象に残った部分とを色分けをする。 ○グループで出た意見を、複数名に発表させることで、全体で共有する。 ○友達の意見を聞いてどう思ったのか問いかける。 【人権教育の視点】 感性：現代において差別はなくなったのかと問いかけ、差別の事例を紹介することで、現代にも差別が残っていることに気づく。	15	【予想される生徒の様子と支援】 A 自分の考えと他人の考えをもとに、さらに考えを広めようとしている。 →積極的な姿勢を称賛し、周りとともに意見交換をするよう促す。 B 資料をもとに、自分の考えを述べている。 →他人の意見から、自分がどう思ったのかを考え、自分の意見と比較してみるよう促す。 C 他人の意見を聞くことはできるが、自分の考えをはっきりと発表することができない。 →他人の意見と同じ箇所でもいいので、そこについて自分の考えを記述してみるよう促す。 ・発表を聞く際には、友人の意見との比較がしやすいように、線を引いて色分けをしながら発表を聞くようにする。
まとめる	4 本時のまとめをする。 ○本時の学習の復習をする。	5	・まとめを記入したら全体で共有し、本時の学習内容を確認する。
	5 振り返りをする ○本時の学習を踏まえながら、授業の振り返りをする。 【人権教育の視点】 判断力：授業で学んだことを踏まえながら、差別と向き合っていくために、自分たちには何ができるか問いかける。	5	・大衆運動の概要を自分の言葉で表現する際、単元の課題や前時までの学習、デモクラシーの風潮がどう影響しているのかを意識しながら書くよう促す。

【評価項目】

○おおむね満足

当時差別を受けていた人々の思いを考え、えた・ひにん身分であった人々が起こした大衆運動を、自分の言葉で表現している。（社会的な思考・判断・表現）

◎十分満足

当時差別を受けていた人々の思いを考え、全国水平社設立までの流れを、デモクラシーの風潮と関連付けながら、自分の言葉で表現している。（社会的な思考・判断・表現）